

森のいいこい

地域の皆さまとともに

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院は、地域医療における中心的な急性期総合病院として37年目を迎えることができました。これもひとえに地域の皆さまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

当院は大学の附属病院であると同時に、横浜市の地域中核病院です。今年度は、大学病院としての高度医療を追求しながらも、地域医療の中核としての役割をさらに充実させ、地域中核病院としての当院の存在価値を一層高めてまいり所存です。求められている西部病院の姿は、「いざというときに頼りになる病院」です。地域の医療機関からのご依頼や救急の応需を一層積極的に進めてまいります。

さらなる信頼の獲得に向けて、職員一同一層の努力をしてまいります。引き続きご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



病院長 原口 直樹

地域中核病院・地域医療支援病院として 信頼される診療体制を目指して

当院は高度な医療の提供と人間性豊かな医療人の育成を担う医科大学病院であるとともに、横浜市西部地区の地域中核病院、地域医療支援病院として、近隣医療機関や地域住民からの信頼される診療の提供を目指しています。

患者支援センターは、「入退院支援・管理」、「患者・医療・福祉相談」、「地域医療連携」の3部門から構成されており、地域医療連携のさらなる強化を図るとともに、各診療科への速やかな診療応需に努めています。診療実績や特色を明示するとともに、画像検査・内視鏡検査の予約システムの簡素化、各種ホットラインの設置（循環器ホットライン・脳卒中ホットライン・骨折ホットライン・消化器ホットライン）、連携登録医専用の直通電話の開設など応需の改善に努めております。今後も、皆さまから「選ばれる病院」となれるような診療体制を整えて参りますので、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



副院長／患者支援センター センター長／消化器・一般外科部長 内藤 正規

Contents

- 産婦人科のご紹介 2ページ
- 新任 診療部長 紹介 3ページ
- 連携登録医のご紹介（高畑耳鼻咽喉科医院）／健康管理部よりお知らせ ... 4ページ



外来は地域中核病院として、 産婦人科全般の診療を行っています

当院は地域周産期センターを有しています。横浜市立大学附属市民総合医療センターおよび神奈川県立こども医療センター同様、横浜市の基幹周産期センターです。また、大学附属の総合病院の強みとして、内科そして色々な科の協力のもとに合併疾患のある母体の管理を行うことができ、新生児科と連携しながら早産、新生児疾患などのハイリスク妊娠の管理を行っています。小児外科は新生児も含め小児内視鏡手術を多数手がけており強い味方です。

婦人科疾患に関しては、日本産科婦人科内視鏡学会認定施設として腹腔鏡・子宮鏡手術も行っています。適応などにつきましては担当医に直接ご質問ください。婦人科悪性腫瘍に関しては、必要に応じて専門施設へご紹介いたします。

ハイリスクでなくても当院での分娩を希望する方は時期を問わず受け入れており、連携しているクリニックで健診を受け、当院で分娩するセミオープン形式管理も行っています。

正常分娩の際には夫君の立会い出産を感染対策に留意しつつ行っています。また、産後追加料金なくお祝いとして特別食をお出ししています。メニューも、以前は「尾頭付き」の魚などでしたが、新しい世代の方や本邦以外のルーツの方に喜んでいただけるように、栄養部とともに改善に努めており、HPにも写真を載せています。

今年度から、今までは医学的適応などの限られた症例のみに施行してきた無痛分娩に関して、希望による無痛分娩枠の拡大に努めており、担当医とご相談いただき、条件を満たす方にご案内して参ります。

また、病棟内の内装工事など段階的にリニューアルにも努めております。新しい建物やラグジュアリーな装備はなくても、患者さまたちに自然に囲まれた環境のなかで心地よく過ごしていただけるよう日々考えております。



周産期センター センター長
産婦人科 部長
田村 みどり



出産祝い膳



産婦人科スタッフ

新任 診療部長 紹介

よろしくお願い申し上げます

2023年4月より呼吸器内科部長を拝命致しました井上健男と申します。私自身、西部病院での勤務は、研修1年目の3か月間と大学院入学直後の1年間と、今回で3回目となります。本年3月まで20年以上にわたり、聖マリアンナ医科大学病院に勤務し、生命の尊厳を重んじ、病める人を癒す、愛ある医療を提供するという本学の理念のもと、日々の外来および入院診療に従事しておりました。今後も、この基本的な姿勢を忘れることなく診療にあたって参ります。微力ではございますが、皆さま方のご期待に応えるべく、粉骨砕身の思いで尽力して参ります。何卒、よろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科 部長
井上 健男

患者さまの生活を見据えた医療を目指します

当科の診療では、就労している若年世代から高齢者まで、幅広い世代における疾患を扱います。そのため我々は、患者さまの生活背景に合わせた医療を提供できるよう心がけています。たとえば一口に脳梗塞といっても、就労している若い方であれば復職を目指した対応が必要になりますし、高齢の方であれば快適に生活できることを重視した対応が必要になります。近年、治療の発展が目覚ましい多発性硬化症・重症筋無力症などの神経免疫疾患では、年齢・性別に応じた適切な治療を提案します。ALS、パーキンソン病などの進行性の難病では、ご本人だけでなくご家族にも長く寄り添う医療を目指します。疾患だけではなく、生活背景にも配慮した医療を提供することで、患者さまや近隣医療機関の方々より、頼りにされる存在となれるよう努めてまいります。



脳神経内科 部長
萩原 悠太

ご挨拶

2023年4月よりリウマチ・膠原病内科部長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。関節リウマチをはじめとする膠原病は、生物学的製剤の登場により治療法が劇的に変化し、多くの患者さまが寛解に達することが可能になりました。当科スタッフは3人と少人数ですが、これまで以上に診療を通じて地域に貢献したいと思います。その上で、近隣の病院、クリニックとの連携は大変重要と考えます。関節リウマチ、その他膠原病の疑いお困りの患者さまがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



リウマチ・膠原病内科 部長
山崎 宜興

ご挨拶

2023年1月より麻酔科部長として赴任しました丹羽康則と申します。4月より手術部長も拝命いたしました。これまで手術室運営・医療安全を軸にしており、臨床面では困難気道確保・超音波ガイド下神経ブロックの教育にも携わっておりました。各診療科に患者さまをご紹介頂いた際には安全で質の高い麻酔を提供できるよう、スタッフ一同尽力してまいります。



麻酔科 部長／手術部 部長
丹羽 康則

